

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol: 150

令和4年3月4日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



気仙沼大島を臨むねぎ畑

今年度を振り返って

総括技術次長 安達芳則

一昨年から世界規模で流行している新型コロナウイルス感染症は、次々と変異株が出現するなど思った以上に手強い見えない敵となっております。この一年、農業者の皆様は感染対策を講じた中で、当普及センターにおかれましては、当普及センターにおいてはコロナ禍における影響を注視し、米価下落や燃油価格の高騰等をはじめとした現下の状況を重く受け止め、農業経営に係る各種相談や支援事業・制度を御案内する「営農相談窓口」を引き続き設置しております。現場の課題について、御遠慮なくお気軽に御相談ください。

さて、今年度、当普及センターでは、次頁に記載のとおり、いちごやねぎを生産する農業法人に対しての経営体質の強化に向けた技術支援、県内では新規品目となる枝もの類「まつ」の産地づくりに向けた支援、担い手の経営安定のための地域営農計画の策定支援に係る三つのプロジェクト活動を中心に、関係機関・団体と連携のもと普及活動に取り組み、それぞれ一定の成果を得ることができました。関係者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

国の米政策の転換やみどりの食料システム戦略など農業情勢が大きく変化していくことが想定される中、当普及センターでは次年度においても魅力ある気仙沼・南三陸の農業をめざし、園芸やアグリテックの推進、持続的な地域振興、経営承継に向けた支援など、農業者の皆様が安心して生産できるよう、活力ある地域農業の構築に向け取り組んでまいります。

今年度の普及活動実績

1 ねぎといちごの販売拡大による経営の安定

【対象】シーサイドファーム波路上株式会社

高品質生産・安定出荷を目標に据え、栽培技術の向上や効率的な作業計画の作成について、生産者と普及センターが協力しながら達成を目指しました。

①ねぎ部門

高品質生産・安定出荷を目標に、技術改善・効率化に向けた巡回指導の中で、作型や品種の選定、除草管理作業の検討を行うとともに、話し合いをとおして作業状況に応じた計画修正を支援することで、適期作業への意識向上が図られました。関係機関からは、加工用野菜業者などの紹介を行い、販路の拡大に向けて検討を行いました。また、JAや市の担当者を交えた定例会を開催し、従業員による作業の振り返りと効率化に向けた議論を行いました。従業員からの提案により、現場収穫作業員と調製担当者、社長の連絡体制について改善を図るなど、問題点の共有と改善への意識向上により、具体的な対策につなげることができました。

次年度のさらなる高品質・安定出荷を目指し、ほ場ごとの作型や品種選定による計画作成を行いました。



ねぎ部門定例会



ねぎ栽培の現地指導



いちご部門定例会



親株管理の先進事例視察

②いちご部門

技術の向上による収量増加や出荷調製作業の効率化を目指し、巡回指導を行うとともに、JAを交えた定例会を開催し、その都度栽培管理の振り返りと改善点の洗い出しを行いました。

昨年度の課題として挙げられた親株管理の効率化については、先進事例の視察を行い、その技術の取り込みによる作業管理の改善を図りました。

年内の収量が安定・向上するよう、育苗管理指導と花芽分化の確認を行い、適期定植を促すことで、収穫の開始時期を遅らせず高単価の時期に安定して出荷できるよう支援しました。また、収穫ロスの削減に向け、収穫目安の共有や収穫量を考慮した調製作業について支援しました。

これらの活動をおとして、各種管理技術が向上し、今年産の年内収量は前年と比較して約40%向上しました。また、収穫量が多く通常のパック詰めが追いつかない場合は効率よく調製できるバラ詰めも活用するなど工夫をすることで、出荷ロスが削減されました。

効率化に向けた作業の改善が検討されるとともに新たな販路開拓も行われており、次年度に向けさらなる生産・販売拡大が期待されます。

今年度の普及活動実績

2 市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展

【対象】株式会社南三陸Pine Pro

①経営発展ロードマップ策定支援

クロマツの生産目標を軸に、きく栽培と併せた複合経営の目標や後継者確保・経営継承までを見据えたロードマップ（年次別実行計画）を検討しました。また、クロマツの生産目標達成に向けて、株式会社南三陸Pine Proを中核とし、県内他地域のクロマツ生産者、花市場、輸送会社が連携してサプライチェーンを構築し生産拡大を図る体制づくりを働きかけたところ、「みやぎクロマツ生産拡大連携協議会」が組織され、事業活用による施設・機械の導入や相互交流による技術向上等に向けた取組が開始されたほか、関係機関を参集して経営戦略会議を開催し生産目標等を共有したことで、農地の確保や各種事業実施に向けた協力体制が構築されました。



製品化されたクロマツ（若松）

②クロマツの生産安定支援

生産安定と作業の省力化に向けて雑草防除や直播栽培技術、排水対策の検討を行なったほか、製作会社と連携して作業機械の開発に向けた検討を実施しました。また、「若松」の初出荷に向けて農業・園芸総合研究所、市場、運送会社と連携して出荷規格検討会や出荷目揃え会、輸送方法に関する打合せを実施しました。ニーズに合わせて20種類（若松14種類、小松6種類）の規格を設定し、大阪、東京、岐阜、茨城、台湾へ出荷されました。出荷後には出荷実績の振り返り作業を行い、次年度の本格出荷に向けた改善策を検討しました。

③きくの生産安定支援

需要期に確実に出荷するための栽培方法を検討するため、農業・園芸総合研究所と連携し、8月盆出荷作型で13品種、9月彼岸出荷作型で12品種を供試して赤色LEDを活用した露地電照栽培現地実証試験と現地検討会を実施しました。露地電照栽培による開花調節効果が理解され、次年度も継続して試験に取り組み、地域に適した品種選定と電照方法について検討していくことになりました。

3 持続的な地域営農の実現に向けた担い手の経営安定

【対象】田表機械利用組合

①将来ビジョン及び営農計画の作成支援

組合の将来ビジョンの作成に向け、チラシの配布とアンケート調査を実施し、アンケート結果を将来ビジョンに反映させ、将来の目標や取組内容を見える化していきます。

この地域の将来の中心的担い手となる組合のオペレーターに対しては、営農状況を整理するとともに、5年後の生産計画及び経営改善計画の作成を支援しました。品目ごとの収支を確認することで課題が明確となり、その課題を生産計画に反映させ、認定農業者に認定されました。

②栽培技術向上支援

個別巡回を中心に土づくりや栽培管理指導を行ったほか、多品目栽培を行うオペレーターに対し、品目ごとの作型や年間労働時間を整理しました。各品目の作業競合時期を明確にしたことで、品目の整理と次年度以降の計画的な管理作業に向けて意識が高まりました。



経営改善計画作成支援

③地域と連携した鳥獣対策取組支援

当地域には野生動物を誘引する要因のひとつとなる放任果樹（柿）が点在しています。そこで、専門家と連携して現地調査を行って場所を特定し、それをもとに地域住民と協力して柿の収穫作業を試みました。

効果的に電気柵が設置されるよう、現地研修会を開催しました。組合員と地域住民が連携した集落ぐるみの鳥獣対策が実践され、鳥獣対策への意識が高まりました。



電気柵設置研修会



牛乳料理講習会の開催 ～地元産牛乳をおいしく食べよう！～

令和4年1月21日に気仙沼市のキッチンスタジオで気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会と共催で牛乳料理講習会を開催しました。



調理実習の様子

講習会には21人の会員が集まり、みやぎ食育コーディネーターの千葉マキ氏を講師に迎えて、管内の農事組合法人モーランドの牛乳や乳製品を使用した料理4品の作り方を実習しました。レシピをもとに参加者それぞれが工夫しながら料理を作り上げました。

実食時には講師から牛乳や食物繊維を摂取する重要性などを講話していただきました。参加者からは「自宅でも作ってみたい」、「娘にレシピを教えたい」などの声が聞かれ、充実した講習会となりました。



せり栽培視察研修会が 開催されました



せりの品種特性について解説

せりの栽培技術向上を目的として、JA新みやぎ南三陸地区本部管内の生産者を対象に栽培研修会が開催され、県農業・園芸総合研究所を視察しました。生産者と関係機関を含め6人が参加して、

前半は農業・園芸総合研究所の露地野菜チームの試験ほ場を視察し、後半は担当者からせり栽培の年間スケジュールや病虫害防除について講義をいただきました。

ほ場視察ではせりの品種特性について理解を深め、講義では産地の植付方法や水管理など栽培管理について学びました。生産者からは施肥管理などについて多くの質問があり、有意義な研修会となりました。

アグリテックの推進について

宮城県では情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）といった先端技術を活用した「アグリテック（スマート農業技術）」の普及を推進しています。

将来に向けて活力ある農業・農村が持続的に発展していくためにも、新技術の活用による省力・低コスト化や高品質化は重要なテーマです。現場の農家の方からの期待も聞かれますが、一方で「どう活用したらいいかわからない」、「導入費用に対して効果があるのか」といった声も聞かれます。

宮城県では、そのような疑問に答え、農家の皆様が適切な導入の判断や技術の活用につながられるよう、情報発信や試験研究を行っています。

みやぎスマート農業推進ネットワークでは、「みやぎスマート農業（水田作）通信」を発行して、県内で実施した実証事業の結果や県内の導入状況を紹介するとともに、「活用の手引き」を発行しています。

スマート農業に取り組んでいる、または関心がある方の加入も可能であり、会員同士の情報交換や関連するセミナー、現地実演会が実施されますので、興味のある方は是非下記から詳細を御確認ください。

URL:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/smart.html>



みやぎスマート農業活用の手引き

収入保険制度について

すべての農産物を対象に、自然災害、価格低下のほか、経営努力では避けられない収入減少を補償します。

- 加入申請時に青色申告実績が1年分あれば、農業者ごとに基準収入の90%を下回った場合に、差額の9割を上限に補填します。
- 保険料等の50%、積立金の75%が国庫補助です。
- 保険期間中の大きな損害発生時には、無利子のつなぎ融資で対応できます。
- 収入保険の加入には、青色申告を行っていることが必要です。

青色申告を始める場合は、税務署へ「青色申告承認申請書」を提出します。提出期限は3月15日です。

※令和4年分の申告から青色申告を始めると、令和5年1月から収入保険に加入できます。

青色申告には
メリットが
たくさん！

- ・最高65万円の特別控除
- ・専従者の給与額を必要経費に算入できる
- ・農業経営基盤強化準備金制度が使える
- ・損失額の繰越しや繰戻しができる
- ・農業者年金の保険料補助

※以上は個人事業の場合です。法人の場合の詳細は、別途お問い合わせください。

●申込み・問合せ先 宮城県農業共済組合（NOSAI宮城） 電話：022-225-6701